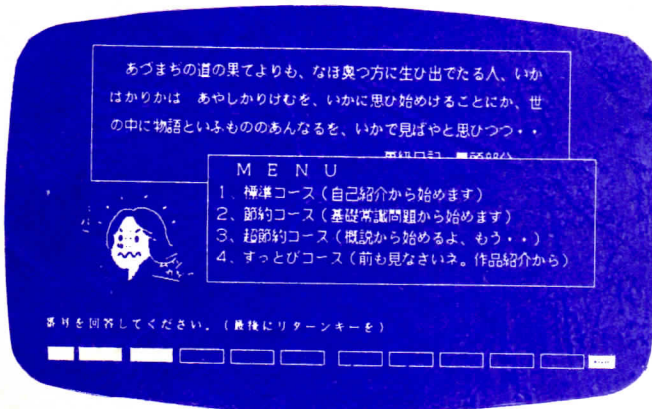


教育ソフトウェア・ライブラリー

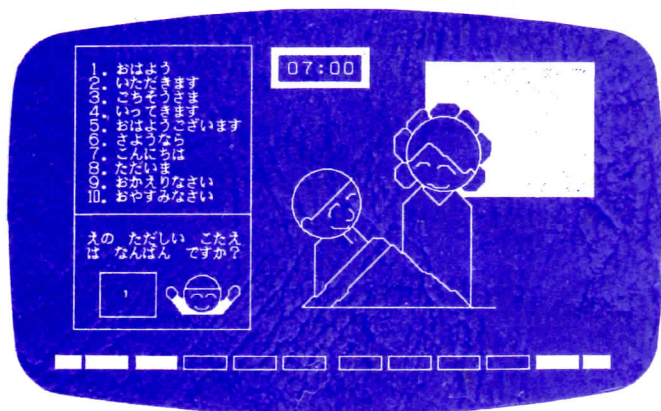
集録ソフトウェア概要

(昭和62年度)



藤原孝標女の平安時代文学探訪
(日記・随筆文学編)

養護・訓練 (言語) A
(あいさつ言葉の学習)



兵庫県立情報処理教育センター

(昭和62年度C A I 教材開発講座)

ソフト名：藤原孝標女の平安時代文学探訪

Ver. 1. 0

(副題：Part 1 日記・随筆文学編)

教科・科目：国語（古典文学）開発者名：小池 覚

対象学年：高等学校2年 所 属：兵庫県立姫路飾西高等学校

ソフトの様式：

学習時間：（3時間）

フレーム数：（34）

履歴No.（1）－（54）

機種名	会社名	周辺装置	メモリー	OS	言語	オーサリング
PC9801	NEC		標準		N88BASIC (86)	NEW CAI TOOL Ver2.0(会話型)

枚数	起動プログラム名	OPENファイル数	エグゼキュータ名	用意すべきOS・ソフト
2	RUN.CAI TEACHER	3	NEW CAI TOOL Ver2.0	ディスクBASIC

<ソフトウェアのねらい>

高校古典の学習は、多かれ少なかれ平安文学を中心として進められる。このソフトウェアは、平安文学を担った文学者について基礎的な知識を固めるため、まず日記・随筆文学に焦点を絞り、各作品の個性と歴史的背景を重視し、全体を構成した。基本的には、概説と設問、グラフィック説明の組み合わせであるが、学習者の能力に応じて、いくらでも高度な読みが可能になるよう努力した。

<ソフトウェアの特徴>

全体のガイド役として、平安女流文学者の一人・菅原孝標女を選び、彼女が語りかける体裁をとった。

彼女を選んだ理由としては、（1）文学少女であること、（2）血縁に文学者が多いこと（最もこれは周囲のだれを選んでも同じことになるのだが）、（3）祖先に菅原道真がいること、等である。

特に重要な理由は、（1）と（3）である。（1）によって生徒は、古典と同じ時代に

いきた人間の言葉で、各作品の個性をとらえることができるであろうし、(3)によって、藤原北家の栄華に集約する、平安の歴史背景に近づくことができるであろう。藤原北家との政争により失脚した道真を祖先にもち、しかも受領層の娘でしかなかった文学者・孝標女は、平安時代のガイド役に最適であると、開発者は考えるのである。(加えて言えば物語編を作成するに当たっても、彼女の文学少女ぶり、及び後期つくり物語のいくつかの作品の作者に彼女が擬せられているのは好都合である。)

さて、本ソフトウェアの目的は最終的には、末尾の作品紹介と文学史の説明を繰り返し読み、味わい、理解するところにあるのだが、情報量としては膨大なものがあり、とうてい1時間やそこの学習で消化しきれぬものとは思えない。従って、何度も本ソフトウェアに挑戦する意欲を植え付けるため、いくらかの工夫をした。

まず、不親切かもしれないが、あえて正解を提示しなかった。また、直線コースではなく、わき道にそれる設問を用意し、「かくれ問題」と称し、簡単な暗号読解の遊びによって侵入できるようにした。また、各作品紹介の前には、「チャレンジ問題」を設定し、関門破りの遊びの要素を入れた。

各作品紹介にはグラフィック説明を入れるように心がけ、視覚的に楽しむ要素も取り入れた。一見、馬鹿げた問題に実は高度な内容を盛り込んだものもある。(たとえば「かくれ問題」の問8など)本ソフトウェアをクリアした上で、教師によりこれらの設問に関する総合的な説明を試みるのもよいと思う。

その他、細かな工夫としては、各作品のイメージカラーを設定し、色と作品を結び付けたことなどがあるが、いかに効果を上げ得たかは学習者の感想をまつかないであろう。

<利用上の留意点>

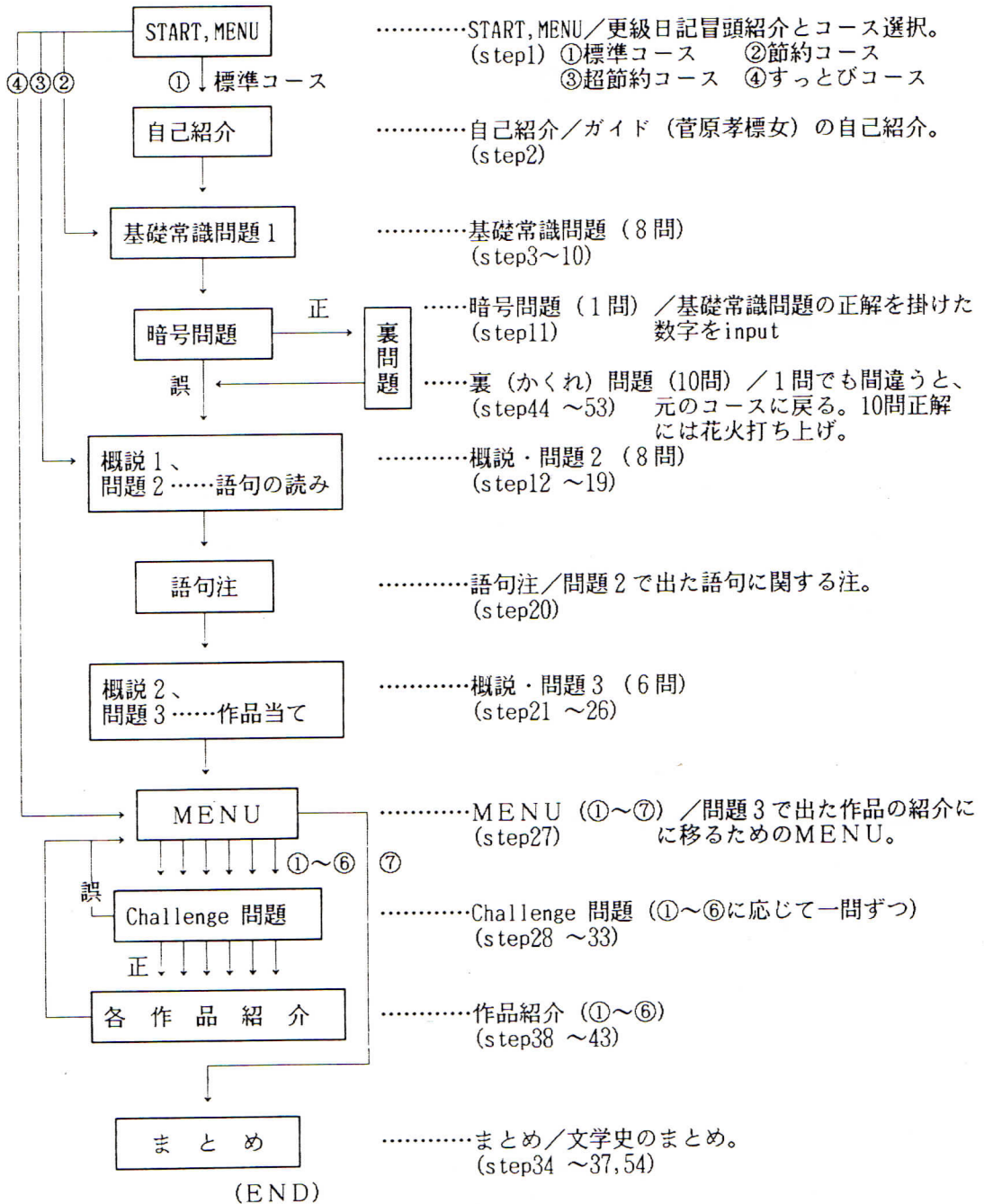
学習は第一フレームのコース選択から始まるが、初めてのものは標準コースを選び、全体の概要を理解した上で随意二度目三度目は別コースを選べばよい。

画面進行に[f.10]「次へ」キーを使う場合が多く、リターンキーを使う場合との弁別をはっきりさせておいて欲しい。

反転画面は即座に使用できないため「反転」キーの表示が出るまで、待つことも指示してほしい。

また、正解提示に関しては、先に述べたような理由から、あえて組み入れなかったのでできるだけ自分の力で調べて解答するように努力させてほしい。(文学史の副読本を用意させて、CAIに取り組みせようかと思っている)

<学習フローの概略>




あづまぢの道の果てよりも、なほ奥つ方に生ひ出でたる人、いかにばかりかは あやしかりけむを、いかに思ひ始めけることにか、世の中に物語といふものあんなるを、いかに見ばやと思ひつつ・・

平家日記 巻頭部分

M E N U

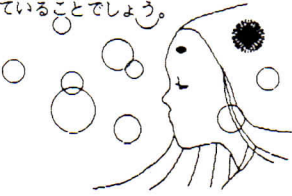
1、標準コース（自己紹介から始めます）
 2、節約コース（基礎常識問題から始めます）
 3、超節約コース（概説から始めるよ、もう・・）
 4、すっとびコース（前も見なさいネ。作品介绍から）



番号を回答してください。（最後にリターンキーを）=

最初のメニュー
メニューの入っている
部分には直前まで口語
訳を揚げていた

いつの時代にも、その時代を代表する文化というものはありました。
 平安の世にも、仏教美術や建築など、すばらしいものがたくさん。でも、それらについて心しておかねばならないのは、それらが貴族のものであり、ついには庶民のもではなかったことです。
 私達がこれから訪れる文学史の旅も例外ではありません。華やかな宮廷生活を背景に持ち、貴族社会の盛衰を描き出した、さまざまな文学作品達。
 私達は、まず平安の日記・随筆文学に触れて行きたいと思います。その中には、今は昔の平安貴族達の、喜びと悲しみが綴られていることでしょう。

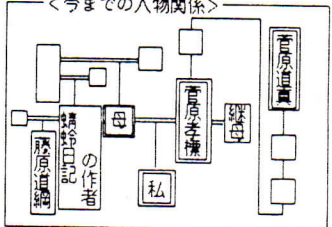


概説
孝標女が語りかける形
式をとっている

藏人・・・天皇の側近に仕えた令外の官。天皇の公私の諸用を処理し、昇殿の資格があった。
 受領・・・諸国の長官。自らの私腹を肥やすための悪政も数多く見られた。
 殿上人・・・内裏の清涼殿（天皇の日常生活の場）への昇殿を許された者。四位・五位および六位の藏人。
 宿世・・・前世からの因縁。宿命。

（おまけ）
 上総・・・今の千葉県あたり。
 常陸・・・今の茨城県あたり。
 蜻蛉・・・虫の名。とんぼに似るが、全体に弱々しく、はかないもののたとえにされる。

＜今までの人物関係＞



文字をぬめるときはリターンキーを。

3分

語句注
同じような形式で適宜
反転画面で語句の説明
を見ることが出来る

チャレンジ問題

Challenge Question, 2

問二 「蜻蛉日記」は近代の小説家にも多くのファンを持つ作品です。田山花袋は「道綱の母」、室生犀星は「かげろふの日記遺文」という作品を残していますが、それでは「かげろふの日記」という作品を書いた小説家は？

- 1、井伏鱒二
- 2、伊藤 整
- 3、堀 辰雄
- 4、梶井基次郎
- 5、横光利一
- 6、川端康成

制限時間内に回答してください。(最後にリターンキーを)

2 分



<今後の課題>

最大の問題点は、一画面の文字数が多すぎるという点である。国語といった教科の性質、及びこのソフトウェアが、教師なしでも独立して学習できるという体裁を取ろうとしたためであるが、それにしても学習者にしいる疲労は大きいと思う。適当に、目が疲れない程度に、細かく学習できるような工夫をもっと凝らすべきだったと反省している。

<参考文献>

日本古代文学史	西郷信綱	岩波書店
日本の古典	北原保雄編集	大修館書店
日本の歴史 4 平安京	北山茂夫	中央公論社
日本の歴史 5 王朝の貴族	上田直鎮	中央公論社
週間朝日百科 日本の歴史61	村井康彦編集	朝日新聞社
週間朝日百科 日本の歴史62	西郷信綱編集	朝日新聞社
日本古典文学全集 9 土佐日記他	松村誠一他	小学館
日本古典文学全集11 枕草子	松尾聡 他	小学館
日本古典文学全集18 和泉式部日記他	藤岡忠美他	小学館
女性と民間伝承	柳田国男	角川書店